

学 会 記 事

第19回研究大会は、1998年11月7日（土）・8日（日）の両日、武蔵野の自然に恵まれ、樺並木で有名な成蹊大学で開催された。両日とも、小春日和の好天で、（好天にもかかわらず）最後まで会員多数が出席して、研究大会は盛況のうちに終了した。

共通論題は、「EU 通貨統合」であり、主として経済及び法律の視点から、詳細な研究報告が行われ、フロアーとの間にきわめて活発な質疑応答が展開された。また、アテネ大学のルカス・ツカリス（Loukas Tsoukalis）教授により、「EMUの政治経済学」（The Political Economy of EMU）と題する講演（英語）が行われ、会場は熱気に包まれた。ツカリス教授の講演は、きわめて明快かつエネルギッシュであり、フロアーからは、それに呼応して、次々とさまざまな質問が投げかけられた。瞬間的とはいえ、武蔵野が知的国際交流のつぼと化したといっても言い過ぎではなからう。

また、1998年9月にブリュッセルで開催された第4回 ECSA-World Conference の概要に関して、3名の出席者からきわめて詳細な報告が行われ、世界におけるEU研究の現状・水準が紹介された。なお、第一日目の日程終了後、開催校成蹊大学のご好意の下に、会員多数が出席して盛大な懇親会が催された。懇親会には、大使ご夫妻をはじめとして、駐日欧州委員会代表部の方々も多数出席され、大いに盛り上がった。

研究大会と並行して、11月7日・8日の両日、理事会が開催された。理事会では、1）島田悦子新理事長の選任、2）横浜国立大学・庄司克宏研究室への事務局移転…等が議論され、総会の了承をえた。

[プログラム]

共通論題 EU 通貨統合

□第1日(11月7日)

午後の部(13時~17時) 司会者 中村 民雄(成蹊大学)

(1) EMU の法制度および対外的側面 庄司 克宏(横浜国立大学)

(2) 第4回 ECSA-World Conference の概要紹介

第1部会(EU 諸国に対する EURO の経済的側面)

長部 重康(法政大学)

第2部会(政治的・制度的側面)

中村 民雄(成蹊大学)

第3部会(国際的側面)

田中 素香(東北大学)

(3) EMU の政治経済学

Loukas Tsoukalis(アテネ大学)

総会(17時~17時30分)

懇親会(17時40分~19時40分)

教職員食堂(学生会館3階)

□第2日(11月8日)

午前の部(10時~12時) 司会者 田中 素香(東北大学)

(1) EU の通貨統合: ESCB による一元的金融政策の展望と課題

岩田 健治(福岡大学)

(2) EU 共通通貨と諸価格の収斂

島野 卓爾(学習院大学)

昼食・休憩(12時~13時)/理事会(12時~13時)

総会(13時~13時15分)

午後の部(13時15分~15時15分) 司会者 清水 貞俊(東海学園大学)

(1) EU 通貨統合の世界経済への影響 嘉治 佐保子(慶應義塾大学)

(2) 欧州通貨統合の不整合的構造と EMU 以後の問題

金 俊昊(東京国際大学)

.....
日本 EU 学会のインターネット・ホームページへは、駐日欧州委員会代表部のインターネット・ホームページ <<http://jpn.cec.eu.int>> を通じてアクセスすることができます。